

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871101180		
法人名	医療法人社団 それいゆ会		
事業所名	グループホーム「かわも」		
所在地	兵庫県宝塚市川面3丁目24番9号		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	兵庫県神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療法人なので、健康管理・医療的ケアが安心であり、駅が近くで家族が面会に来やすいのと、買い物に便利、そしてこの地区に先代の院長の医院があったので地域との交流が盛んであること。</p>
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「医療法人社団それいゆ会」が事業主で、4階建てビルの1階に児玉診療所、2階と3階にグループホーム「かわも」がある。JR・阪急「宝塚」駅の徒歩5分の立地条件に恵まれた環境である。地域との結びつきが深く、自治会の秋祭りをホームの駐車場で共催したり、認知症についての勉強会を民生委員等と開催したり、地域で必要とされる活動や役割を担っている。職員は蓄積された介護経験を活かし、安心・まごころ・ふれあい・結びつきを大切にケアを実践している。また、利用者や家族の希望・意向を十分聞き、個別ケアを徹底しているホームである。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とは別にグループホームの理念があり、施設内に掲示している 日々安心の介護を行い、地域の行事に参加し交流を深めている	法人の理念・グループホームの理念とそれぞれ別々に玄関・事務所に掲示している。ホームの理念は全職員の名札の裏に明示し、入職時や毎朝のミーティングで理念に沿った実践となっているかの振り返りを心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の教会のバザー、演奏会、それいゆ会のお祭り等にお互いに参加し合って交流している	自治会の秋祭りはホームの駐車場で共催し、近くの教会からは行事等の招待があり、訪問もある。ホームにて、民生委員の人達と認知症についての勉強会を開催したり、自治会の人達と高齢者が食べやすい料理の調理法についての勉強会を開催したり、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の認知症サポーター事業に協力して、当施設にてグループホームの見学・認知症方との交流等を開催している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて、利用者へのケアについての報告や家族、介護保険課職員、知見者からの多数の意見を頂き今後の介護計画に活かしている	運営推進会議は、偶数月の第4火曜日に定期的開催している。自治会長・市担当職員・社会福祉士等地域の様々な方が参加し、毎回テーマを決めて参加者からの意見・要望を受けることで双方向的な会議となり、出された意見等を改善に向けた取り組みにつなげている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席を頂き、何か質問や報告がある場合は、市の担当者を訪ねている	管理者は、市の担当窓口には認定更新手続き以外でも毎週出向き、ホームの運営や現場の実情を伝える機会づくりをしている。また、管理者が宝塚市介護保険事業者協会の役員をしており、施設部会を2か月に1回市役所の会議室で開催しているため、その機会にも市との連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒等のリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を職員全員で考え行っている 家族にも協力をして頂いている(家での工夫等)	職員は身体拘束の対象となる事例等を理解し、身体拘束をしないケアを日々職員で話し合っている。また、何か課題が出てくれば、その都度ケアのあり方を模索し、様々な工夫を行いながら身体拘束しないケアを徹底している。職員は鍵をかけないケアの大切さは理解しているが、立地条件や防犯上、エレベーターには暗証番号を導入している。	立地条件等の課題はあるが、引き続きエレベーターの暗証番号の取り扱いについて、職員全員で話し合いの機会を持ち続けることが望まれる。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の疲労やストレスに気を配り、利用者のケアに何か影響が出ていないか把握する 虐待についての勉強会をおこなっている	高齢者虐待の防止についての研修・勉強会を行い、高齢者虐待防止関連法を十分理解している。職員の疲労やストレスを考慮し、余裕のあるシフトを組むことにより、利用者のケアに影響が出ないようにしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に自立支援サービスを使用されている方もあり、入所時に家族と成年後見についてお話をすることになっている	日常生活自立支援事業・成年後見制度を利用している利用者があり、職員も理解し支援に結び付けているが、管理者が外部研修で学んだことを職員に報告するのみになっている。	両制度の活用に向けた支援ができるよう、今後も継続的に職員の理解を深めるための勉強会を開催することが望まれる。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族には、契約・解約についての諸注意を丁寧に話し、納得して頂いている	家族等に対して重要事項説明書等に基づき、分かりやすく時間をかけて説明している。特に、利用料金がかかる入院・看取りについての対応方針や医療連携体制の実際については詳しく説明し、同意を得ている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が運営推進会議、家族会、訪問の機会に介護に対する意見や思いを伝えて下さったことを、運営に活かしている	昨年の12月に家族会議があり、職員異動で職員が分からないとの意見を受け、職員の顔写真と名前を掲示することになった。個々の利用者の家族の意見・要望は行事開催時や訪問時に聞き取りを行っており、その意見等をサービスに反映させている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、現場職員の意見、要望等を聞く機会を設け、職員の働く意欲の向上やホームの質の確保に繋げている	管理者の交代があったため、コミュニケーションを十分に取り、意見を言いやすい関係作りに努めている。また、随時個別面談を行い、職員の要望・意見を聞くようにしている。やむを得ず職員が交代する場合は、ユニットリーダーが指導し、まずは利用者へ5日間寄り添うことで異動による利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	合同の親睦会で職員たちの要望を聞いて、なるべく働きやすい職場環境の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は可能な限り職員全員に受けてもらい、法人外の研修は、職員に順番に受けてもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護事業者協会の施設部会で同業者との交流があり、意見交換や勉強会をして、サービスの向上に取り組んでいる		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の言葉に耳を傾け、まず何を希望されるのか、心配事は何かあるのか等をお聞きして信頼関係を結び、安心して過ごせるように努める</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所の相談の段階より、家族の希望、意見、困り事には耳を傾けより良い関係が作れるように努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス開始の時点で、本人と家族が一番望んでいることを出来る限り支援することに努めている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、本人がこれまで行ってこられた家での仕事、役割を大切に、できることはお願いして、共に過ごす仲間同士としての関係を築いている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族と本人の関わりを大切に、家族と協同して本人を見守り、支えていく関係を築いている</p>		
20	(11)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人が暮らして来た地域や友人とのふれあいをできるだけ継続し、関係がなくならないよう支援に努めている</p>	<p>ホームのある地域に暮らしていた利用者が多く、今までの生活の延長線であるよう馴染みの知人や友人の訪問がある。どのような方が来られたかを把握できるよう、「友人訪問関係表ノート」を作成している。馴染みのデパートや商店、行きつけの場所への付き合いが続けられるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者間のうまが合うか合わないか把握し、つまはじきのない暖かい関係が生まれるように努めている</p>		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、随時相談には乗り、他のサービスの紹介等させて頂いている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らしぶりは、初めに本人、家族、友人から聞き取り、希望に沿うように努めている	日々の関わりの中で利用者がどのように暮らしたいか、何をしたいか声をかけ、言葉や表情等から観察し、把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族や関係者から情報を得ている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での過ごし方、以前のサービス利用の内容等これまでの暮らしぶりをなるべく多く情報収集して、こちらでのサービスの参考にしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者によっては、ご自分の思いや希望などが伝えられない場合もあるので、利用者をよく知っている人たちに本人に成り代って考えて頂く様に努めている		
26	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には意向や、意見を一番多くもらい、家族・友人にも気づき、アイデアを頂き、皆の話し合いのもとにより良い介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人・家族・必要な関係者から話を聞き、職員全員によるカンファレンスを通じて介護計画を作成している。利用者の状態や家族の意向に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画へと変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ファイルに日々の様子、気づきは記入し、アセスメント、モニタリングを皆で共有しながら介護計画に活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人暮らしであったため、お墓の掃除、お花の供えを職員が支えるサービスに取り組んでいる		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁のボランティアとの対局や製作作品をバザーへ出品したり、教会への参加等地域資源を大いに活用している		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医をお聞きし、今までの主治医をそのまま継続されている。主治医がおられない方は、納得の上でこちらの協力病院、診療所にかかられている	法人病院をかかりつけ医としている利用者もいるが、これまでのかかりつけ医で継続的に受診している利用者もいる。一人ひとりの受診状況を把握し、かかりつけ医だけでなく、皮膚科や歯科の往診がある。薬の情報・受診結果情報等については、家族・職員間で十分共有できている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護職と常に情報交換できている。吸引器の使い方など必要に応じて研修会をしてもらっている		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人内の協力病院、診療所なので、入退院の情報交換や相談は常に行っている	入院時利用者の普段の状況や特徴などを伝え、入院状況もこまめに情報が届き、三者一体となって具体的な退院計画を立てている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化の場合、終末期の対応について話し合いを行い、それぞれの希望を共有している	重度化や終末期の状況に応じて、医師より家族に対してホームの方針について説明を行っている。医療体制が十分整っていても、本人や家族の思いは揺れ動くため、常に対応について話し合っている。また、職員にもターミナルケアの理解が深まるよう、管理者が受講したターミナルケアの研修結果を職員に伝えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回事業所内にて、急変、事故発生時に対する訓練を行っている		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練、事業所内での避難訓練等を行っている	医療法人それいゆ会防災規定・消防計画にそったマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。本年度は実践的な夜間訓練を行い、具体的な誘導策について消防署から指導を受けた。備蓄品として、水・米・非常食等診療所と連携して準備している。また、自治会長を通して、地域と協力体制が取れるよう働きかけている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、常に人生の先輩であり師匠であるので、言葉使い、態度には職員全員が気をつけている	利用者が人生の先輩であることを常に意識し、言葉遣いや態度には十分注意している。新規採用職員には、言葉かけや介護・接遇の仕方を4日間先輩職員から教えてもらい、誇りやプライバシー確保について学んでいる。個人情報の管理については、事務所ロッカーに鍵をかけ、保管するなど徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃行っていることは、まずいかがいたしまししょうかと何でも本人の希望を言える場を作っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望、意見、状態があるので、できるだけお聞きして、利用者本位にして頂けるように支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな洋服、帽子をできるだけご自分で選んで頂いている		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番楽しみにしておられるので、セッティングから、副菜の取り分け、主食の盛り付け等おできになる方全員で行える支援をしている	法人病院から提供される食事を基本にしているが、一汁一菜をホーム独自で作ることもある。利用者と職員と一緒に配膳の準備をしたり、片付けをしたりしている。月に1回、栄養委員会があり、管理栄養士が利用者の嗜好を聞き取り、献立に役立っている。利用者家族からいただいた豆や野菜と一緒に調理することもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力の基、一人ひとりの栄養量が不足しないように支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。毎週来られる訪問歯科の先生に相談もしている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンは、一人ひとり異なり、時間誘導の方、ご自分で行かれる方、個別ケアで対応している	排泄チェック表を使用し、一人ひとりのサインを全職員が把握し、さりげなく誘導している。利用者の習慣や排泄パターンを読み取り、生活のリズムにそった支援を行い、自立に向けた配慮を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には、管理栄養士に相談もし、野菜をできるだけ食べてもらうことや、体を動かすことや主治医にも相談して個々に対応している		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分の希望や気分があり、一番風呂が良い方、あとでゆっくり入りたい方、それぞれに応じて入浴を楽しむ支援をしている	利用者によって入浴のリズムがあるため、本人の意向や希望時間帯等を尊重しながら、利用者個々にそった入浴ができるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が習慣の方、うたた寝が気持ちの良い方、夜更かし気味の方それぞれに応じて支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最低限飲んで頂きたい水分量以外は、お好きなように飲めるようにポットに入れたり、コップに入れたり希望に沿っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁、手芸、散歩、家事等その方の希望、思いをお聞きして支援に努めている		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、なるべく戸外に出かけられるように努めている。お花見、紅葉がりは年間の行事として出かけるように支援している	年間行事やバス旅行・電車での外出以外にも、それぞれの利用者の要望に応じて、近くのデパートの買い物やイベントに出かけている。散歩することによって、近隣の人たちと挨拶を交わす機会となっている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行ったり、バザーに出かけたりした時は、ご自分の財布からお金を出して使ってもらう支援をしている		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族・知人からかかってくるが多く、手紙はよく書いて出しておられる		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者がよく集う場所となっている。家具の配置は、時々変えて居心地が良い場所にする工夫をしている	共有空間には居心地よい家具や椅子を配置し、心地よい音楽が流れ、家庭的な雰囲気となっている。ホームの飾り付けはすっきりしており、廊下には憩いコーナーがあり、月毎のアルバムが置かれ、利用者が和める空間となっている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所にくつろげるところを工夫している		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを配置し、居心地の良い居室にしてもらう工夫をしている	居室は一人ひとりの思い出の品や趣味の作品を飾り、利用者の馴染みの家具や調度品が置かれ、居心地よく暮らせるよう配慮している。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の移動や、デイルームでの移動がご自分で行える、そしてできることはなるべく一人でして頂く工夫をして危なくないように見守りをする支援をしている		